

平成 29 年度 第 1 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成30年3月22日（木）午前10時00分～午前11時30分

◇場所：三原市役所本庁者4階 第3, 4会議室

◇出席委員：10名（欠席2名）

◇議事内容：主な意見など（○委員，●事務局）

1 開 会

2 協 議

（1）アクションプランについて

○：市民提案型協働事業の提案回数が1事業あたり3回までとは、どういう意味か。

●：提案団体は、同じ事業を3回まで年度を変えて実施できるというものである。同じ団体が3回までではなく、同じ事業を3回まで提案できるという意味である。

○：推進計画がどのくらい進んでいるのかを評価やチェックしたり、あるいは、その評価を踏まえて計画したりするものをアクションプランと呼んでいる。本日、提示した事業をサンプルと考えていただき、次回、この様式で評価できるかどうかということについてご意見いただきたい。市民提案型協働事業は、市の事業であるが、実績が分かるものは現状の欄にある団体数と交付金額だけである。事業に関する数字や成果、課題に関する点をもう少し書き込んだら検討しやすい。

○：評価はどのような方法になるのか。協働事業に取り組む住民組織や市民活動団体が増加したかどうか、各団体の事業遂行能力はどうか、あるいは連携強化が図られたかどうかを評価指標の一つとし、これをどのように評価していくかというのであれば議論しやすい。

○：現状のところは、平成23年度から28年度までの述べ数であるが、アクションプランを毎年度作成するとすると、1年ごとの記載とする方が推移は見えやすい。

○：市民提案型協働事業について、これまでの住民組織と市民活動団体の採択の比例はどのようになっているか。

●：述べ41団体採択を行い、手元に詳細な資料はないが、ほとんどが市民活動団体と思われる。住民組織にこの制度を十分に周知できていないという課題がある。今後、周知を図っていききたい。

○：当初から、市民協働のまちづくりという観点では、支援のターゲットを住民組織とするのか、市民活動団体とするのかについて論議したことがある。住民組織と市民活動団体とを分けて考え、住民組織から提案型協働事業の申請が出て

いないことについて改善が必要。

- ：様式を見ていると、財政的なところばかり出ている。財政的な面は非常に重要なポイントであるが、協働の本来の目的が何であるかについて検討することが必要。
- ：記載の工夫が必要であるが、協働がどれくらい進んでいるかについて、数字になるものがあれば掲載した方がよいか。
- ：全て数値で測るとするのは難しい。住民がどう感じているかなど、感覚的なものも記載しておかなければ、数字に埋もれてしまう。
- ：数値は、補完データとしてはよい。ただし、事業をどう進めていくのかということについて併せて考えていかないといけない。
- ：市は、町内会の活動把握をしているのか。
- ：全ての活動を把握しているわけではないが、住民組織活動補助金を交付しており、補助金を交付した活動については把握している。
- ：次回、平成 29 年度の評価をするための資料が作成され、委員が評価できるかたちになっていればよい。

(2) 年度間スケジュールについて

- ：委員会は、アクションプランについて3回協議する。説明のあった公共施設のあり方の検討について、委員会として関わることはあるか。
- ：方向性は市で固めるが、委員に意見等を頂くようになる。アクションプランについては、定期定例で、協働のまちづくりに関する事業を進捗管理し、委員に意見を頂き、その中で重要な案件があった場合は、議題としたい。
- ：公共施設のあり方については、どの時期までに検討、実行するのか。
- ：方向性は、出来るだけ早く出したい。
- ：アクションプランについては、昨年度実行分について、年度が始まる前にプランを作り、年度が終わったら評価をして、その結果を実行中のアクションに反映させていくという流れになる。いったんこれで進め、何か不足があれば改善をしていくということによいか。アンケートの報告では、中間支援組織を強化しようと思ったため、そのあたりも柔軟に対応していただきたい。
- ：中間支援組織に関するアンケートでは、高齢化により、後継者がいないなどの課題が浮き彫りになっており、それはアクションプランにも通じるものがある。

- : アクションプランについては、それを評価する段階で課題という項目は載せようと思っている。課題がある場合、アクションプランの修正にあわせて検討したい。